

日本臨床薬理学会「認定 CRC 通信」メルマガ =第 012 号=



「認定 CRC 通信メルマガ版第 012 号」2020 年の第 2 回目の発行です。

「第 41 回日本臨床薬理学会学術総会」会長の大戸茂弘先生から皆さまへのメッセージを掲載しています。

☆

☆

1 「第 41 回日本臨床薬理学会学術総会」のお知らせ

学術総会テーマ：「臨床薬理学に立脚した創薬育薬グローバル連携」

学術総会会長：大戸茂弘

九州大学大学院薬学研究院長・学府長・学部長 教授

会期：2020 年 12 月 3 日（木）～5 日（土）

会場：福岡国際会議場および WEB 会場

演題登録期間：終了

参加登録期間：2020 年 5 月 20 日（水）～10 月 23 日（金）

Web サイト：<https://www.41jscpt.org/>



この度、第 41 回日本臨床薬理学会学術総会会長を仰せつかった九州大学大学院薬学研究院薬剤学分野の大戸茂弘です。第 41 回日本臨床薬理学会学術総会を、2020 年 12 月 3 日（木曜日）から 5 日（土曜日）までの 3 日間、福岡国際会議場（福岡市博多区石城町 2-1）にて開催させて頂くことになりました。歴史ある本学会の会長を担当させていただきますこと、誠に光栄であるとともに、その責任の大きさをひしひしと感じております。

日本臨床薬理学会は、国民の皆様が、より有効でかつ安全な薬物治療の恩恵を受けられるように、学術的貢献および社会的貢献に資する目的で、1980 年に設立されました。臨床薬理学は、「合理的薬物治療」を志向する学問で、薬物治療の有効性と安全性を最大限に高め、個々の患者様に最良の治療を提供する

ことを目指しています。合理的薬物治療を実践するためには、創薬と育薬のための臨床試験に関する科学、個々の患者様の病態に合わせて薬力学的側面および薬物動態学的側面からの合理的薬物投与設計の構築、患者さんと医療者との信頼関係の形成が重要となります。

今回の学術総会は、福岡で初めての開催であり、福岡はアジアの玄関口でもあり、医歯薬香の多職種連携および産学官連携を目指し、テーマを「臨床薬理学に立脚した創薬育薬グローバル連携」としました。これまでと同様に第 41 回日本臨床薬理学会学術総会でもあらゆる診療領域の医師、薬剤師、看護師、CRC、検査技師など様々な背景をもつ方々および産学官でご活躍の方々にお集まりいただき、幅広い臨床薬理学研究の結果の発表を基に討論や情報交換をしていただき、最新の知見を吸収していただく場を設定いたします。特別講演には、Joseph Bass 先生 (Department of Medicine, Division of Endocrinology, Metabolism, and Molecular Medicine, Feinberg School of Medicine, Northwestern University) に体内時計に関するご講演「Circadian Regulation of Insulin Response to Meal-Timing」をいただく予定です。また中野重行先生 (大分大学名誉教授) に「「こころ、からだ、いのち」をめぐるニンゲン学」をテーマにご講演をいただく予定です。さらに特別企画シンポジウムでは、治験の歴史、AMED・BINDS 創薬プロジェクト、COVID-19 の最先端について、ご紹介いただく予定です。その他、教育講演、シンポジウム、ランチョンセミナー、一般発表、他学会共催セミナー、男女共同参画セミナー、臨床薬理振興財団賞授与・受賞講演、海外研修員帰朝報告会、臨床薬理学講習会などのプログラムを予定しております。

現在、世界各国で新型コロナウイルスが猛威をふるっています。この度の感染症の拡大は、人類にとって大きな試練であります。このような状況の中で、新型コロナウイルス対策に日夜、最前線で働く医療従事者の皆様に深く敬意を表します。それを支えておられる多くの関係者およびエッセンシャルワーカーの皆様のご努力に深く感謝の意を表します。

一方で、新型コロナウイルスの感染症を巡り、治療法の開発が加速しております。ワクチン製剤などの開発に加えて、ウイルスの増殖や呼吸機能の障害を抑制する既存薬の探索など、患者を対象に薬効評価試験が実施され、有効性が確認されつつあります。また、迅速検査キットの開発も進んでおります。治療法開発が急務の状況下、臨床薬理学の役割は必須と言えます。こうした中で、臨床薬理学会は、わが国における臨床薬理学の振興を目的として医薬品の開発にかかわってきました。それに多大なご貢献をされてこられました CRC の先生方に心より感謝を申し上げます。

今後の感染状況の急激な悪化や緊急事態宣言の発令などの場合には、WEB 開催および誌上開催となることをご理解いただけますと幸いです。WEB でもご参加いただけますので、第 41 回学術総会に一人でも多くの CRC の先生方のご参加をお待ちしております。

2_ (連載) 臨床薬理専門医から認定 CRC に対するメッセージ <第 11 回>

東京大学医科学研究所
国際先端医療社会連携研究部門
湯地 晃一郎 先生



認定 CRC の皆様、東京大学医科学研究所の湯地晃一郎と申します。日本臨床薬理学会の広報委員会委員長を務めております。私はこれまで、北里大学北里研究所病院研究部臨床試験センター（次項参照）の治験分担医師として、認定 CRC の方々と共に働き、早期臨床試験に携わってきました。また血液内科医の診療を通じて、新薬による血液がん患者さん転帰の劇的な改善を体感してきました。慢性骨髄性白血病に対する分子標的薬（イマチニブ：商品名グリベック）、悪性リンパ腫に対する抗体医薬（リツキシマブ：商品名リツキサン）などが嚆矢として挙げられます。認定 CRC の同僚の方々と共に、臨床薬理専門医として、新薬開発から実臨床まで、第 I 相から第 IV 相の治験に携わってきたのは大きな喜びです。

本稿では、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する話題を取り上げ、学会の広報活動についてご紹介したいと思います。

2020 年に入り、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大により、世界は大きく変わってしまいました。認定 CRC の皆様の業務も、COVID-19 の影響を受けていることと拝察申し上げます。COVID-19 に対するワクチン・新薬開発が世界的最優先事項となり、莫大なりソースが割かれ未曾有のスピードで実施される一方で、既存・新規の治験・臨床試験は、緊急事態宣言の発出により大きな打撃を受けました。不要不急の外出自粛要請により、被験者・臨床開発モニター（CRA：Clinical Research Associate）などの来院は困難となり、治験薬のサプライチェーンにも甚大な影響が生じています。今後、COVID-19 流行の終焉が全く見えない中、治験・臨床試験分野にも、IT 技術を活用したデジタル化・リモート化が急速に進み、業務内容に変革が生じることが予想されます。規制当局は、COVID-19 流行下での臨床試験実施に関するガイダンスを公表し、被験者の安全確保、諸問題への柔軟な対応策が示されています（新型コロナウイルス感染症の影響下での医薬品等の治験実施に係る Q&A、令 2 年 5 月 26 日更新。<https://www.pmda.go.jp/files/000235164.pdf>）。

さて、ここからは話題を変え、認定 CRC の皆様向けの日本臨床薬理学会の広報活動についてご紹介申し上げます。情報配信をご希望の場合には、文末の学会事務局宛にご一報をいただければと存じます。

まずは本学会ホームページ(<http://www.jscpt.jp/>)です。皆様もご覧になられたことがあると存じます。本年度の認定 CRC 試験は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大により中止となり、認定期間は一律 1 年延長となることが、5 月 10 日に発表されました。この情報は、認定 CRC の皆様に、ホームページ及びメールで初報が配信されました。認定 CRC 制度のページ (<http://www.jscpt.jp/seido/crc/>)

には、認定 CRC 資格の関連情報に加え、本通信のバックナンバーも掲載されています（<http://www.jscpt.jp/seido/crc/melmag.html>）。その他、求人募集のページ（<https://www.jscpt.jp/recruit/index.html>）、そしてトップページの学術総会・地方会・セミナー情報に関しては、高頻度の更新を行っております。

続いて、メーリングリストと入会のご案内です。本学会では、認定 CRC 向けのメーリングリストを運用しており、本通信をはじめとした認定 CRC 関連情報を随時配信しております。さらに学会員向けのメーリングリストでは、臨床試験・治験・臨床薬理学に関する広範な情報配信を行っております。学会未入会の方は、ぜひご入会をご検討いただければ幸いです。入会案内のページは、（<https://www.jscpt.jp/nyukai/index.html>）です。本年度より、Web の入会申込フォーム（<https://jscpt.gakkai-form.net/enrollment/>）からも入会可能となり、入会手続きがより簡便となりました。

最後に、Facebook（<https://www.facebook.com/jscptkohol/>）のご紹介です。上述のホームページ・メール配信の最新情報を、随時投稿しております。ぜひ「いいね！」ボタンを押していただき、情報をフォローしていただければと存じます。

以上、本稿では、COVID-19 に関する話題と、学会広報活動についてご紹介しました。COVID-19 による変革の荒波の中、抗ウイルス薬や抗体などの新薬・ワクチン開発分野をはじめとして、認定 CRC の皆様の責務はますます高まることは間違いありません。今後とも、日本臨床薬理学会の広報情報をご活用いただければ幸いです。何卒宜しくお願い申し上げます。

☆

☆

3_ 「第 20 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 2020 in 長崎」WEB 開催のお知らせ（2 回目）

The 20th Conference on CRC and Clinical Trials 2020 in Nagasaki

会議テーマ：「本質を考える ～輝く未来を拓く原点～」

会議代表：鶴丸 雅子（長崎大学病院 臨床研究センター／薬剤部）

開催形式：WEB 開催

会期：2020 年 11 月 3 日（火・祝）～16 日（月）

参加登録期間：（前期）2020 年 5 月 18 日（月）～8 月 11 日（金）

（後期）2020 年 8 月 25 日（水）～10 月 15 日（木）

Web サイト：<http://www.c-linkage.co.jp/crc2020/>

Facebook：<https://www.facebook.com/crc2020/>



新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が全世界に拡大し、未だ収束の気配が見えない状況が続いております。ここに謹んで亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、遺族の皆様にお悔やみを申し上げますとともに、未だ闘病中の皆様にご心よりお見舞いを申し上げます。また、COVID-19 に伴う様々な対策への対応に奔走されておられる皆様、治療の最前線で尽力されておられる

医療関係者の皆様には、深甚なる敬意を表します。

「第20回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2020 in 長崎」もCOVID-19の影響を鑑み、20年目に初めてWEB開催となりました。皆様に長崎に来ていただけないことは本当に残念で苦渋の決断でしたが、医療従事者も多く参加される本会において、皆様の安心・安全を第一に考えると、この決断しかないとの判断に至りました。

今回のCOVID-19のパンデミックは、今までの常識・価値観が覆るような甚大な影響を及ぼしています。臨床研究・治験の分野も同様に、パラダイムシフトが起きつつあります。New Normal、新たな時代の始まりです。第20回も、今回のピンチをチャンスと捉えて新しい開催形式にチャレンジします。

第20回のテーマは、本当に大事なものは何かを見つめ直す思いを込めて「本質を考える～輝く未来を拓く原点～」としました。マニュアル化・効率化は大変重要で進めるべきことですが、時に「本質」を考える機会を奪い、また「本質」から外れた簡略化・断捨離に偏る危険性もはらんでいます。昨今の臨床研究・治験をめぐる様々な不祥事も、「本質」が理解できていれば回避できていたことです。臨床試験・治験を取り巻く環境は激動の時代が続き、常に求められる「変革」には「本質」の理解が必要です。

現在、奇しくも、COVID-19というピンチが、改革の機会をもたらし、そのための「本質を考える機会」になっていると思います。まさに第20回のテーマです。この機会に、臨床研究・治験に携わる様々な立場の皆様と一緒に、日本の臨床研究・治験の未来が「輝く未来」となるよう、第20回がそれを「拓く原点」となるよう、「本質」について考えたいと思っています。

プログラム委員には、産・学・官の立場から、第一線でご活躍中の総勢20名にお集まりいただき、まさに「本質」を考える充実したプログラムが完成いたしました。また、タイムリーなCOVID-19関連の企画もあります。座長・演者・一般演題発表者の皆様には、大変お忙しいところ、今までと異なるWEB開催への対応にご協力いただき心より感謝申し上げます。

今回、皆様のおかげで、前期の参加登録期間には2700名を超える方々にご登録いただきました。また、10月15日(木)まで後期の参加登録が可能となっており、多くの皆様にご登録いただいております。本当にありがたく感謝申し上げます。それを受けまして、WEB視聴の同時接続によるシステムトラブルリスク等を軽減するため、WEB配信期間を2週間に延長することにいたしました。



第20回 CRCと臨床試験のあり方を考える会議 2020 in 長崎

The 20th Conference on CRC and Clinical Trials 2020 in Nagasaki

HOME	開催形式 WEB開催	
開催概要	会期 2020年11月3日(火・祝) ~ 16日(日)	
会議代表等挨拶	会議代表 鶴丸 雅子(長崎大学病院 臨床研究センター/薬剤部)	
スタッフ紹介		
プログラム		
参加登録		
演題登録		
採択演題 NEW!		

WEB開催にはさまざまなメリットもあります。実地開催では同時間に開催されるプログラムには1つしか参加できませんが、今回は会期が2週間ありますので、基本的には全プログラムをご自分の時間に合わせて何度でも視聴していただけます。長崎にお越しいただけないのは大変残念ですが、移動と旅費が不要になります。これまでいろいろな都合でご来場いただけなかった方も参加しやすくなるのではないかと思います。もちろん、従来と同じく、日本臨床薬理学会認定CRCの単位も取得可能です。

また、これまで、臨床研究・治験をもっと良く理解してほしいと思いながらも、会場への参加をお願いできなかった医師や関係部門の方々へも紹介していただきやすくなるのではないかと思います。ぜひお声がけいただき、研鑽や啓発の機会にさせていただきますと幸いです。

WEB開催は初の試みであり、種々の不都合・不行き届きもあると思いますが、「WEBだからこそできること」を体験できる、皆様に満足していただける魅力的な会にしたいと考えています。「新しいCRCあり方会議」を、皆様と一緒に共有できましたら嬉しいです。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

☆

☆

4_ (連載) 臨床研究部門紹介 <第4回>

北里大学北里研究所病院 研究部 臨床試験センター
副センター長 福嶋 邦昭 先生

皆様、コロナ禍の中、いかがお過ごしでしょうか。職場、家庭等に新しい生活様式が求められ、試行錯誤の連続ではないでしょうか。私が所属している研究部 臨床試験センターでは、緊急事態宣言が発令された4月から約3カ月間、新規臨床試験の実施、継続中案件の新規組み入れ停止措置をとらざるを得ない状況になりました。その後、宣言は解除されたため、新たな体制を構築し、業務を再開しましたので、その取り組みを含め、早期臨床試験施設を中心に紹介をさせていただきます。

【研究部】

1987年、(社)北里研究所に設置されたバイオアトミックセンターを起源とし、その後、幾度かの組織編成が行われ、今は大学病院内の1組織として治験、臨床研究、再生医療、基礎研究の機能を持った部門として現在に至っています。白金キャンパスにある当院は、治験専用病床60を含んだ329床と中規模な病院です。大規模でなく中規模であるがゆえのスケールメリットがあり、各診療科、部門との隔たりはなく(全くないかと言われるとほどほどにはありますが…)、横の連携が緊密にとれ、臨床試験への協力もスムーズに行われていると自負しております。

1. 臨床試験センター

臨床試験センターでは、健康人を対象とした試験Ⅰ係、診療科を中心に患者さまを対象とした試験Ⅱ係に別れ、Ⅰ係では早期探索的臨床試験、First in Human 試験を含む第Ⅰ相試験、試験Ⅱ係では第Ⅱ、Ⅲ相試験、医師主導臨床試験および製造販売後臨床試験の支援を行っております。主な構成メ

ンバーは、看護師 5 名、薬剤師 7 名、臨床検査技師 16 名で全員が専任スタッフとして従事しております。職場環境が良く居心地がいいのか、10 年、20 年の永年勤続表彰を受けるベテランがゴロゴロおり、その経験を武器に精度の高い臨床試験を実施しています。

2. バイオメディカル・ラボ

当院の特徴のひとつであり、中規模な病院では珍しく、基礎と臨床を結ぶトランスレーショナルリサーチを実施し、セルプロセッシングユニット (CPU) や共同実験室の管理、運営を行っています。CPU には、class100 レベルのクリーン度で培養操作ができるアイソレーターや CO₂ インキュベーターが完備され、共同実験室にはバイオセーフティ 2 の微生物実験ができる実験室を有しており、いずれも臨床試験で使用することも可能です。ご興味のある方は是非、お問い合わせください。診療科、研究部から発生する COVID-19 の PCR 検査もこの部門がすべて担当しています。(右写真)



【COVID-19 対策】

研究部では、緊急事態宣言が解除され、臨床試験を再開する際に様々な取り組みを行っています。

1. スクリーニング時、または入院時に PCR 検査を実施しています。同部内で検査可能な環境があり、運用には何の障害もありませんでした。現在では、機器も更新し、処理能力もアップしています。検体採取に必要なガウンの脱着などは、院内感染管理室の指導に基づき、実施しています。健康成人を対象とした第 I 相試験や生物学的同等性試験では、多人数を同時期に実施することがほとんどです。説明会も多人数で実施しますが、PCR 検査は実施前のため、入室時のチェックは当然ですが、3 密を避けるため、1 室に入る人数を制限し、場合によっては、別室に分散させることをしています。その際、別室には、説明者の映像、音声をリモート配信する試みを行っています (念のため、IRB でこの方法について確認をしました)。こうした取り組みの詳細は、「第 20 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議」でポスター発表を予定しています。乞うご期待ください。右写真は、眼科医お手製の飛沫防止用アクリル板を装着した非接触型眼圧計です。



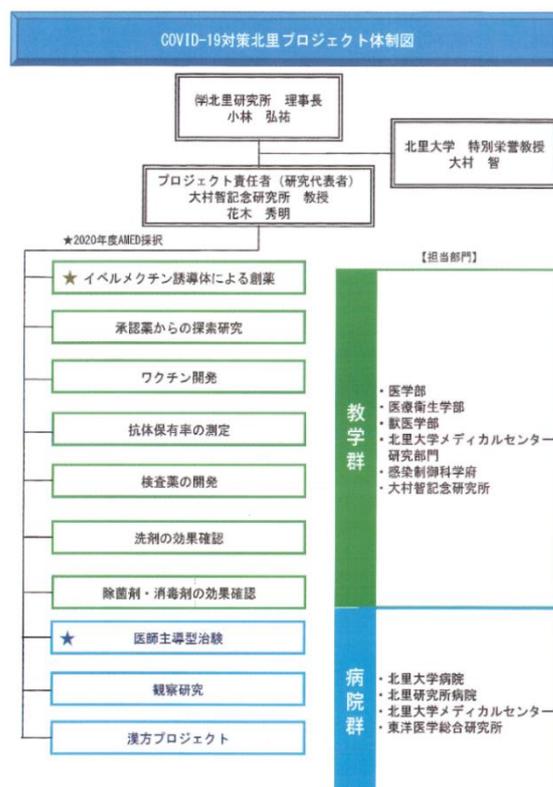
2. 当院で行われる治験は、法人設置の北里大学白金治験審査委員会 (白金 IRB) で審査をしています。構成委員 13 名中、9 名が外部委員であり、以前より Web での参加も可能としていたため、1,2

年程度前からは常時 2 名程度の委員が Web で参加していました。COVID-19 の感染拡大の影響により、テレワークが新しい生活様式として推奨されています。審査資料は、タブレット端末を利用した電子化が以前から行われ、IT 化の草分け？である白金 IRB においては、一早く委員全員（内部外部問わず）の Web 会議システムの利用を推奨し、緊急事態宣言下においても委員会を休会することなく、審査業務を運営することができています。

IRB 事務局は研究部内に設置されていて担当者の半数以上は CRC も兼務していることから、IRB の Web 開催の方法等のノウハウを活かし、前述のとおり、健康成人を対象とした臨床試験において多人数の被験者が参加する場合の被験者説明会のリモートでの開催方法検討や開催時のサポート等にも貢献しています。

3. 北里研究所は、「COVID-19 対策 北里プロジェクト」の一環として、イベルメクチンの医師主導治験を計画しています。8 月の IRB で審査/承認され、いよいよスタートします。朗報をお届けできるよう、一丸となって努力してまいります。

COVID-19 の感染者増加により緊急事態宣言が発令された時点より現在（8 月）は、更に事態が深刻化し、見えないものへの恐怖や不安にもがき、次々と登場する新しい生活様式に翻弄されていますが、世の中には目に見えないものに守られ、救われることもあるのではないのでしょうか。with コロナ、うまく付き合う必要があるのかもしれません。この記事が掲載されるときには、少しでも状況が好転していることを祈るばかりです。



☆-----☆

5_ 日本臨床薬理学会が認める研修会・講習会

以下の URL で確認できます。

https://www.jscpt.jp/seido/crc/kensyu_list.html

更新に向けて、こつこつポイントを貯めましょう！

< 日本臨床薬理学会認定 CRC 制度運用細則 >

<https://www.jscpt.jp/seido/crc/saisoku.html>

☆-----☆

6 新たな情報提供

最近のトピックスなど、新たな情報をご提供させていただきます。興味のある情報はクリックしてみてください。

1. 医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令の一部を改正する省令（PMDA Web サイト）
<https://www.pmda.go.jp/files/000236372.pdf>
2. 「医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令」のガイダンスについて」の改正について（PMDA Web サイト）
<https://www.pmda.go.jp/files/000236359.pdf>
3. 治験に係る文書又は記録について（PMDA Web サイト）
<https://www.pmda.go.jp/files/000236360.pdf>
4. 新医薬品の承認申請資料適合性書面調査、医薬品の GCP 実地調査及び医薬品の GPSP 実地調査等に係る実施要領について（PMDA Web サイト）
<https://www.pmda.go.jp/files/000236362.pdf>
5. 医薬品の承認申請資料に係る適合性書面調査及び GCP 実地調査の実施手続き並びに医薬品の中間評価、再審査及び再評価申請資料の適合性書面調査及び GPSP 実地調査の実施手続きについて（PMDA Web サイト）
<https://www.pmda.go.jp/files/000236363.pdf>
6. 自ら治験を実施しようとする者による薬物に係る治験の計画の届出等に関する取扱いについて（PMDA Web サイト）
<https://www.pmda.go.jp/files/000236407.pdf>
7. 治験の実施状況等の登録について（PMDA Web サイト）
<https://www.pmda.go.jp/files/000236406.pdf>
8. 機械器具等に係る治験の計画等の届出等について（PMDA Web サイト）
<https://www.pmda.go.jp/files/000236445.pdf>
9. 機械器具等に係る治験の計画等の届出の取扱い等について（PMDA Web サイト）
<https://www.pmda.go.jp/files/000236446.pdf>
10. 加工細胞等に係る治験の計画等の届出等について（PMDA Web サイト）
<https://www.pmda.go.jp/files/000236447.pdf>
11. 加工細胞等に係る治験の計画等の届出の取扱い等について（PMDA Web サイト）
<https://www.pmda.go.jp/files/000236455.pdf>
12. 治験副作用等症例の定期報告に係る留意事項について（PMDA Web サイト）
<https://www.pmda.go.jp/files/000236400.pdf>
13. 自ら治験を実施した者による治験副作用等報告について（PMDA Web サイト）
<https://www.pmda.go.jp/files/000236398.pdf>
14. 独立行政法人医薬品医療機器総合機構に対する治験副作用等報告について（PMDA Web サイト）
<https://www.pmda.go.jp/files/000236397.pdf>
15. 独立行政法人医薬品医療機器総合機構に対する機械器具等に係る治験不具合等報告について

(PMDA Web サイト)

<https://www.pmda.go.jp/files/000236449.pdf>

16. 独立行政法人医薬品医療機器総合機構に対する機械器具等に係る治験不具合等報告に関する報告上の留意点等について (PMDA Web サイト)

<https://www.pmda.go.jp/files/000236450.pdf>

17. 機械器具等に係る治験不具合等報告に関する取扱いについて (PMDA Web サイト)

<https://www.pmda.go.jp/files/000236451.pdf>

18. 加工細胞等に係る治験中の不具合等の報告について (PMDA Web サイト)

<https://www.pmda.go.jp/files/000236452.pdf>

19. 加工細胞等に係る治験不具合等報告に関する報告上の留意点等について (PMDA Web サイト)

<https://www.pmda.go.jp/files/000236453.pdf>

20. 加工細胞等に係る治験不具合等報告に関する取扱いについて (PMDA Web サイト)

<https://www.pmda.go.jp/files/000236454.pdf>

21. 治験の実施状況等の登録に関する説明会資料 (製薬協 Web サイト)

http://www.jpma.or.jp/medicine/shinyaku/tiken/message/briefing_materials_200818.html

22. 「臨床研究法施行規則の施行等について」の一部改正について (通知) (厚生労働省 Web サイト)

<https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000659474.pdf>

☆-----☆

7 求人募集情報

日本臨床薬理学会の Web サイトには様々な求人募集が掲載されています。正職員の募集も増えています。

<https://www.jscpt.jp/recruit/index.html>

新たな職場を探されている方や転職を検討されている方は、ご活用ください。

☆-----☆

8 認定 CRC 更新

コロナウイルス感染の状況を鑑み、今年度の認定 CRC 資格の更新は中止となりました。

また、認定期間に 2020 年度を含む全ての認定資格について、期限を一律 1 年延長いたします。(保留を含む)

詳細につきましては、日本臨床薬理学会の web サイトでご確認ください。

<http://www.jscpt.jp/index.html>

☆-----☆

9 認定 CRC 通信メルマガ版 バックナンバー

過去に配信されました認定 CRC 通信メルマガ版は、こちらからご覧になれます。

☆-----☆

編集後記

残暑お見舞い申し上げます。今年は大変な猛暑でしたね。本号が皆さまに届く頃には、涼しくなっていることを祈りながら執筆しております。

さていよいよ、今年も秋の学会シーズンがやってきます。11月3～16日にWEB開催される「第20回CRCと臨床試験のあり方を考える会議 2020 in 長崎」の事前参加登録（後期）は10月15日までとなっております。会期中の参加受付はありませんのでご注意ください。また、12月3～5日に福岡国際会議場で開催される「第41回日本臨床薬理学会学術総会」の参加登録は、10月23日までとなっております。皆さま、奮ってご参加ください。「臨床研究部門紹介」の掲載も4回を数えました。日本には、まだ見ぬ魅力あふれる施設がたくさんあると思います。皆様のご施設、お知り合いのご施設、素敵な取り組みをされている部門をご紹介いただけますと幸いです。自薦、他薦、お待ちしております。今後とも認定CRC通信へのご支援のほどよろしくお願いいたします。

なお、認定CRC通信メルマガ第12号の掲載情報は9月30日現在のものであり、コロナウイルスの影響を受けて、情報が今後更新される可能性がありますことをご了承ください。

認定CRC通信編集委員会

☆-----☆

★編集・発行★

発行日：2020年9月30日

編集：認定CRC通信編集委員会

榎本有希子、後藤美穂、長谷山貴博、深川良美、若林薫（五十音順）

発行：日本臨床薬理学会 認定CRC制度委員会

発行人：認定CRC制度委員長 森下典子

★今号の写真★

提供：深川 恵美子「美しい変化」

ひとこと：カエデの花言葉の1つに「美しい変化」があります。季節の移り変わりとともに葉の色が緑、黄、オレンジ、赤と変化していくことに由来するそうです。コロナ以前とコロナ以後、どう時代は変化していくのでしょうか？

※本通信のトップページに掲載する写真やイラストを、読者の皆さまより募集いたします。応募いただける方は、jrcrcnews@gmail.comへ、メール添付にて写真をお送りください。認定CRC通信編集委員会にて選定し、採用された方にのみご連絡させていただきます。なお、掲載用に編集される可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

ご自身でサイズ調整される方は、851×315px にしてください。

★臨床研究部門紹介の投稿募集★

新規企画「臨床研究部門紹介」に次回以降ご投稿いただける施設や組織（SMO などの企業も投稿可能です）を募集いたします。読者の皆さまより「この施設はこんな素敵な取り組みをしているので、記事を掲載してほしい」「自施設ではこんな目新しい取り組みをしていますので、掲載を希望します！」など、自薦他薦を問いませんので、臨床研究や治験部門の紹介を希望される施設をご推薦ください。

推薦いただける方は、[jrcrcnews@gmail.com](mailto:jcrcnews@gmail.com) へ、下記の応募事項を記載のうえメールにてご連絡ください。なお、他薦も可能ですが、必ず推薦する施設より内諾を得たうえでご応募ください。

応募者多数の場合は、認定 CRC 通信編集委員会にて選定して、選定された応募者の方にのみご連絡させていただきます。

【応募事項】

- ・ 応募者の氏名、所属機関名、連絡先（電話番号・メールアドレス）
- ・ ご推薦いただく機関名・部署名
- ・ 推薦施設の窓口担当者（投稿記事を取りまとめいただける方）の氏名、連絡先（電話番号・メールアドレス）
- ・ ご推薦いただく部門の特徴・推薦理由（300 字程度）

★連絡先★

一般社団法人 日本臨床薬理学会（事務局）

メールアドレス clinphar@jade.dti.ne.jp

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル

TEL : 03-3815-1761、FAX : 03-3815-1762

URL : <https://www.jscpt.jp/>

※本メールに返信されても内容を確認することができません。

回答が必要な場合は、日本臨床薬理学会事務局までご連絡ください。

★連絡・相談、メールアドレス変更、配信停止★

日本臨床薬理学会事務局にメールにてご連絡ください。

■ 記事の無断転載はお断りいたします ■

☆

☆